

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 3 部門第 3 区分  
 【発行日】平成 18 年 1 月 19 日 (2006.1.19)

【公表番号】特表 2003-525952 (P2003-525952A)  
 【公表日】平成 15 年 9 月 2 日 (2003.9.2)  
 【出願番号】特願 2000-525265 (P2000-525265)  
 【国際特許分類】

**C 0 8 J 7/04 (2006.01)**  
**B 3 2 B 27/30 (2006.01)**  
**B 4 1 N 3/03 (2006.01)**  
**C 0 9 D 143/02 (2006.01)**

【F I】

C 0 8 J 7/04 T  
 B 3 2 B 27/30 A  
 B 4 1 N 3/03  
 C 0 9 D 143/02

【手続補正書】  
 【提出日】平成 17 年 11 月 22 日 (2005.11.22)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】特許請求の範囲  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 実質的にゼラチンを含まない重合フィルムであって、この重合フィルムは少なくともその一つの表面にコーティング層を有する重合フィルム基板を含み、このコーティング層は少なくとも 1 以上の繰返し単位を持つポリマーを含み、この繰返し単位は少なくとも 1 以上のペンダント基 - P O X Y を含み、この X および Y は、同じかまたは異なっているとしてもよく、O H または O M であり、M はカチオンである、ことを特徴とする重合フィルム。

【請求項 2】 前記コーティング層のポリマーが、1 以上のアクリルモノマーを有するコポリマーを含むことを特徴とする請求項 1 に記載のフィルム。

【請求項 3】 前記コーティング層のポリマーが、ペンダントカルボキシ基若しくは加水分解でカルボキシ基を形成することができる基を含んでいる繰返し単位をさらに含むことを特徴とする請求項 1 に記載のフィルム。

【請求項 4】 前記コーティング層のポリマーが、スルホン化モノマーまたはその塩若しくは他の誘導体であるモノマーをさらに含むことを特徴とする請求項 1 に記載のフィルム。

【請求項 5】 前記コーティング層のポリマーが、アクリル酸、ビニルホスホン酸およびビニルホスホン酸ナトリウムのコポリマーを含むことを特徴とする請求項 1 に記載のフィルム。

【請求項 6】 前記コーティング層が、さらに延伸 ( d r a w i n g ) 剤を含むことを特徴とする請求項 1 に記載のフィルム。

【請求項 7】 前記コーティング層のポリマーが、さらに充填材を含むことを特徴とする請求項 1 に記載のフィルム。

【請求項 8】 前記コーティング層のポリマーが、さらに架橋剤を含むことを特徴とする請求項 1 に記載のフィルム。

【請求項 9】 少なくとも一方の表面にコーティング層を有する重合フィルム基板を

含む印刷版であって、ここで、コーティング層が、少なくとも1以上のペンダント( - P O X Y ) 基を有する少なくとも1以上の繰り返し単位を持つポリマーを含み、ここで、同一若しくは異なるものであるXおよびYがOH若しくはOMであり、Mがカチオンであることを特徴とする印刷版。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0064

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0064】

重合フィルムは、意図される用途にしたがってその厚さを変更しても良いが、フィルムはその全体の厚さが5から350  $\mu\text{m}$ の範囲にあることが好ましく、より好ましくは25から250  $\mu\text{m}$ 、特に125から200  $\mu\text{m}$ である。

以下に、本発明の好ましい態様を示す。

1. 実質的にゼラチンを含まない重合フィルムであって、この重合フィルムは少なくともその一つの表面にコーティング層を有する重合フィルム基板を含み、このコーティング層は少なくとも1以上の繰り返し単位を持つポリマーを含み、この繰り返し単位は少なくとも1以上のペンダント基 - P O X Y を含み、このXおよびYは、同じかまたは異なってもよく、OHまたはOMであり、Mはカチオンである、ことを特徴とする重合フィルム。

2. 前記コーティング層のポリマーが、ペンダントホスホン酸基および/またはその塩またはその誘導体を有する繰り返し単位を含むことを特徴とする1.に記載のフィルム。

3. 前記コーティング層のポリマーが、1以上のアクリルモノマーを有するコポリマーを含むことを特徴とする1.または2.に記載のフィルム。

4. 前記コーティング層のポリマーが、ペンダントカルボキシ基若しくは加水分解でカルボキシ基を形成することができる基を含んでいる繰り返し単位をさらに含むことを特徴とする前記いずれかの項に記載のフィルム。

5. 前記コーティング層のポリマーが、アクリル酸およびビニルホスホン酸のコポリマーを含むことを特徴とする4.に記載のフィルム。

6. 前記コーティング層のポリマーが、スルホン化モノマーまたはその塩若しくは他の誘導体であるモノマーをさらに含むことを特徴とする前記いずれかの項に記載のフィルム。

7. 前記コーティング層のポリマーが、アクリル酸、ビニルホスホン酸およびビニルホスホン酸ナトリウムのコポリマーを含むことを特徴とする前記いずれかの項に記載のフィルム。

8. 前記コーティング層が、さらに延伸(drawing)剤を含むことを特徴とする前記いずれか1つの項に記載のフィルム。

9. 延伸剤がアルキルアリアルフタレートを含むことを特徴とする8.に記載のフィルム

10. 前記コーティング層のポリマーが、さらに充填材を含むことを特徴とする前記いずれか1つの項に記載のフィルム。

11. 前記コーティング層のポリマーが、さらに架橋剤を含むことを特徴とする前記いずれか1つの項に記載のフィルム。

12. 重合フィルムを製造する方法であって、重合フィルム基板を形成する工程、基板の少なくとも一方の表面にコーティング組成物を塗布する工程を含み、このコーティング組成物が少なくとも1以上のペンダント( - P O X Y ) 基を有する少なくとも1以上の繰り返し単位を有するポリマーを含み、ここで、同一若しくは異なるものであるXおよびYがOH若しくはOMであり、Mがカチオンであることを特徴とする方法。

13. フィルム基板の分子配向を達成するために用いられるあらゆる延伸作業の前またはその間に、コーティング組成物を基板に塗布することを特徴とする12.に記載の方法

。

14. 少なくとも一方の表面にコーティング層を有する重合フィルム基板を含む印刷版であって、ここで、コーティング層が、少なくとも1以上のペンダント(-POXY)基を有する少なくとも1以上の繰り返し単位を持つポリマーを含み、ここで、同一若しくは異なるものであるXおよびYがOH若しくはOMであり、Mがカチオンであることを特徴とする印刷版。